

バングラデシュの高濃度砒素汚染地域における持続的な安全水供給のための技術移転事業

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成

4年目

実践

Multi-GSF
上級技術者認定

11人

Multi-GSF
マニュアル作成

300冊

今年度計画の達成度

90%

目標達成度

90%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

モニタリングデータとして、砒素濃度と鉄濃度結果が日本の専門家に送られてくるが、測点番号が明らかに間違っている場合が多く、その指摘・修正に時間を要した。

■工夫した点

最終ジョソールセミナーで「測点～濃度関係グラフ」を説明したが、理解してもらうことが困難だったので、代替案として「砒素濃度表示板」の作業を確実に行うこととした。



首都ダッカで開催した最終報告セミナー

課題

Multi-GSFの持続的な利用を担保する手段の一つとして、現地政府がMulti-GSFの性能を認め、その設置を安全な水供給の施策に組み込むことである。

目標

稼働中Multi-GSFの性能のモニタリング、その成果を取り入れた「Multi-GSFマニュアル」の作成、現地政府の水供給行政を主対象とした最終セミナーの開催。

活動内容と成果

- モニタリングはローカルNGOと協働して行ったが、技術レベル向上のためのワークショップを行い、Multi-GSF専門技術者（上級）を育成した
- 「Multi-GSF建設・メンテナンス」に関するマニュアルを英語およびベンガル語版で作成した
- 首都ダッカで開催した最終セミナーの際、現地政府の水供給行政機関（DPHE）にMulti-GSFの性能が高く評価された。現地政府はMulti-GSFの普及について努力すると表明した



ローカルNGOとのモニタリング打合わせ



メンテナンスを行っている現地スタッフ

全助成期間の活動を振り返って

最後の2年間、新型コロナウイルスの影響で日本人専門家の渡航は叶わず、直接指導やフィールド訪問をすることができなかったが、連絡体制を整備したことで現地スタッフの技術スキルが向上した。また、技術移転の方法としてマニュアルの作成だけでなく、撮影した動画をYouTubeに投稿していくことで、より普及しやすい環境が整った。マニュアルの学習を通じて「Multi-GSF専門技術者」の育成ができた。

〒880-0014
宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス208
電話：0985-20-2201
E-mail：webmaster@asia-arsenic.net
HP：https://www.asia-arsenic.jp



今後の展望

現地政府はMulti-GSFを高く評価し、さらに普及していきたいと宣言した。当団体は今後、現地NGOをソフト面でサポートしながらMulti-GSFの一層の普遍化を図っていく。また、現地専門家からマニュアルに関して、「ヒ素汚泥の処理方法は改良を図っていく必要がある」という意見があったが、このように、マニュアルは現地でのMulti-GSF建設活動を通じてバージョンアップされていくことが期待される。